

# 目次

その1 「神のマスタープラン」 .....	1
イントロダクション .....	1
I. 人類の問題 .....	1
II. 神の計画.....	2
結 論 .....	5
その2 「アブラハム契約から新しい契約まで」 .....	6
イントロダクション .....	6
I. アブラハム契約（創世記 12：1～3） .....	6
II. パレスチナ契約（申命記 29、30 章）－土地の約束－ .....	7
III. ダビデ契約－子孫の約束－ .....	7
IV. 新しい契約－祝福の約束－ .....	7
V. シナイ契約 .....	7
結 論 .....	8
その3 「イスラエルはみな救われる」 .....	9
イントロダクション .....	9
I. 契約の民.....	9
II. メシアの拒否（マタイ 12：22～45） .....	10
III. イスラエルはみな救われる .....	11
結 論 .....	12
その4 「天からの啓示に背かず」 .....	13
イントロダクション .....	13
I. 戦いのスケールに感動 .....	13
II. 福音の輝きに感動.....	14
III. 報いの大きさに感動.....	14
結 論.....	14

# その1 「神のマスタープラン」

## イントロダクション

1. 人類の文明の行き詰まり
2. 神なき文明であり、反宗教的文明
3. その根は、ギリシャ、ローマ文明
4. 創世記3章がその起源

## I. 人類の問題

### 1. 罪とは何か

「あなたは、園のどの木からでも思いのまま食べてよい。しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べるその時、あなたは必ず死ぬ。」（創2：16～17）

- (1) 「善悪の知識の木」とは人の従順を試すもの。
- (2) この命令を守ることで「善悪」を学び「いのちの木」に与る。
- (3) 人はこの命令に背くことを通して「善悪」を学んだ。

### 2. 罪の結果

「神である主は、人に呼びかけ、彼に仰せられた。「あなたは、どこにいるのか。」彼は応えた。『私は園で、あなたの声を聞きました。それで私は裸なので、恐れて、隠れました。』」（創3：9～10）

- (1) 不信仰と不従順の罪（アダム）
- (2) 自己義認の罪（カイン）
- (3) 殺人の罪（カイン）
- (4) 一夫多妻の罪（レメク）
- (5) 血による復讐の罪（レメク）
- (6) 自己顕示の罪（バベルの塔）

## II. 神の計画

1. 創世記 3：15 で人類に救いの希望が与えられた。

「わたしは、おまえと女との間に、また、おまえの子孫と女の子孫との間に、敵意を置く。彼は、おまえの頭を踏み砕き、おまえは、彼のかかとかみつく。」（創世記 3：15）

- (1) 救いは、神が提供するものである。
- (2) 救いは、全人類のためのものである。
- (3) 救いは、「女の子孫」から来る。
- (4) 救いは、「女の子孫」が苦しむことと関係している。
- (5) 救いは、サタンを打ち破ることと関係している。

2. 神のマスタープラン

- (1) メシア的計画（Messianic Program）

神の人類救済のマスタープラン

旧約聖書にはメシア的計画に関連する預言が多い。

（イザヤ 2：1～4、60：1～5、ゼカリヤ 8：20～23、14：1～

11、ヨエル3：16～17、ミカ4：1～5など)

「アモツの子イザヤが、ユダとエルサレムについて示された先見のことば。終わりの日に、主の家の山は、山々の頂に堅く立ち、丘々よりもそびえ立ち、すべての国々がそこに流れて来る。多くの民が来て言う。『さあ、主の山、ヤコブの神の家に上ろう。主はご自分の道を、私たちに教えてくださる。私たちはその小道を歩もう。』それは、シオンからみおしえが出、エルサレムから主のことばが出るからだ。主は国々の間をさばき、多くの国々の民に、判決を下す。彼らはその剣を鋤に、その槍をかまに打ち直し、国は国に向かって剣を上げず、二度と戦いのことを習わない。」(イザヤ2：1～4)

「終わりの日に、主の家の山は、山々の頂に堅く立ち、丘々よりもそびえ立ち、国々の民はそこに流れて来る。多くの異邦の民が来て言う。『さあ、主の山、ヤコブの神の家に上ろう。主はご自分の道を、私たちに教えてくださる。私たちはその小道を歩もう。』それは、シオンからみおしえが出、エルサレムから主のことばが出るからだ。主は多くの国々の民の間をさばき、遠く離れた強い国々に、判決を下す。彼らはその剣を鋤に、その槍をかまに打ち直し、国は国に向かって剣を上げず、二度と戦いのことを習わない。彼らはみなおのおの自分のぶどうの木の下や、いちじくの木の下にすわり、彼らを脅かす者はいない。まことに、万軍の主の御口が告げられる。まことに、すべての国々の民は、おのおの自分の神の名によって歩む。しかし、私たちは、世々限りなく、私たちの神、主の御名によって歩もう。」(ミカ4：1～5)

- a. エルサレムが世界の政治的、靈的中心都市となる。
- b. エルサレムから世界を祝福する靈的ムーブメントが起こる。
- c. 再臨のイエスがエルサレムから国々をさばき、平和が訪れる。
- d. 世界的に繁栄と解放の時代が到来する。

(2) メシア的人物 (Messianic Person) – 「女の子孫」

- a. イザヤ 53 章に代表される受難のしもべ
- b. 栄光に満ちたメシア (イザヤ 11:1~10、ダニエル 7 章の「人の子のような方」)

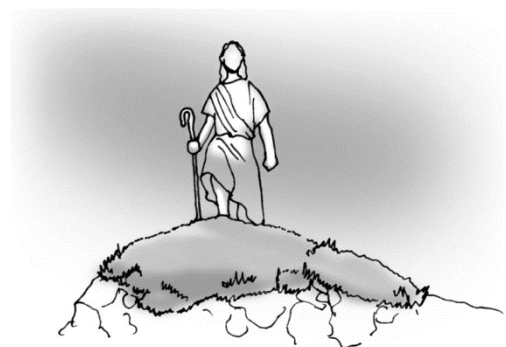
(3) メシア的民 (Messianic People)

「あなたがたは、わたしがエジプトにしたこと、また、あなたがたをわしの翼に載せ、わたしのもとに連れて来たことを見た。今、もしあなたがたが、まことにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るなら、あなたがたはすべての国々の民の中において、わたしの宝となる。全世界はわたしのものである。あなたがたはわたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる。これがイスラエル人にあなたの語るべきことばである。」 (出エジ 19:4~6)

- a. イスラエルは、「祭司の王国」、「聖なる国民」
- b. 救いの選びではなく、方法の選び
- c. 選びは特権であるが、同時に苦難を負うことをも意味する。
- d. 反ユダヤ主義は、神の計画への反抗

## 結 論

1. 神は計画を持っている。
2. 計画に沿った祈りこそ世界を変える。



## その2 「アブラハム契約から新しい契約まで」

### イントロダクション

1. 神は人を通して働かれる。
2. 神は契約の神である。

### 1. アブラハム契約（創世記 12：1～3）

#### 1. アブラハム契約の3つの要素

- (1) 土地の約束
- (2) 子孫の約束
- (3) 祝福の約束

#### 2. アブラハム契約は無条件契約（創世記 15：1～21）

- (1) 片面契約
- (2) 神の啓示

エジプトで 400 年間奴隷となる。

約束の地の確認（エジプトの川とはエル・アリシュ）

この領土の約束は一度も成就していない。

- (3) 千年王国を予表している。

#### 3. アブラハム契約はイサク、ヤコブ、そして 12 部族に引き継がれる。

## II. パレスチナ契約（申命記 29、30 章）－土地の約束－

1. 罪を犯した場合は、土地から追放される。
2. 悔い改めた場合は、再びその土地に回復される。
3. イスラエルの民は、所有権を失ったことがない。
4. 預言者の慰めの預言は、この契約をベースにしている。
5. 千年王国を予表している。

## III. ダビデ契約－子孫の約束－

1. II サムエル記 7：11～17（ソロモンへの約束）
2. I 歴代誌 17：10～15（メシア預言）

## IV. 新しい契約－祝福の約束－

1. エレミヤ 31：31～40（救いに関すること）
2. イスラエルの民全体との契約
3. 心に書かれた律法
4. 千年王国を予表
5. 異邦人はアブラハム契約の霊的祝福に与る。

## V. シナイ契約



1. アブラハム契約を無効にするものではない（ガラテヤ 3：17）
2. 救いを与えるものではない。
3. 神の民に方向性を与える。
4. キリストに導く養育係。
5. 異邦人をアブラハム契約から隔てる。

## 結 論

1. イエスの十字架は、異邦人への救いをもたらした（エペソ 2：11～22）
2. 奥義とは、異邦人も共同の相続者となること（エペソ 3：3～6）
3. では、イスラエルは今、何処にいるか。

## その3 「イスラエルはみな救われる」

### イントロダクション

1. ローマ人への手紙 11：1～36
2. 著者パウロの体験
  - (1) 旧約の民
  - (2) イエスを拒否
  - (3) イエスの福音により救われる。
3. パウロは、イスラエルの象徴と考えられる。

### 1. 契約の民

1. イスラエルの残りの者 (The Remnant of Israel)
  - (1) イスラエルの中の信仰者
  - (2) イスラエルの歴史上、「残りの者」が途絶えたことはない。
  - (3) それは、イスラエルの一部であるが、他と区別された人々である。
2. エリヤと「残りの者」(1列王記 19：9～18)
  - (1) 3つの騒がしいものと、4番目の「かすかな細い声」

## (2) 対比による教訓

大風…ハザエル（アラムの王）はイスラエルを破壊した。

地震…エフー（イスラエルの王）はアハブの王家を破壊した。

火…エリシャ（預言者）は火のような激しさを持っていた。

「かすかな細い声」…イスラエルの中の七千人。

(3) エリヤと共に「残りの者」の神的概念が始まった。

(4) 神は「残りの者」を通して働かれる。

## 3. イザヤと「残りの者」（イザヤ 7～12 章）

### (1) イザヤの子シェアル・ヤシュブ

その意味は「残りの者は帰ってくる」

### (2) アッシリヤに信頼を置こうとするアハズへのメッセージ

イザヤ 8：5～18

### (3) 残りの者の救い（イザヤ 10：20～23）

### (4) 今も恵みの選びによって残された者がいる（ローマ 11：5）

## II. メシアの拒否（マタイ 12：22～45）

### 1. ベルゼブル論争

### 2. ヨナのしるし

#### (1) ラザロの蘇り（ヨハネ 11 章）

#### (2) イエス・キリストのよみがえり

### 3. 拒否の結果

- (1) その世代への裁き
- (2) 紀元 70 年にローマ軍によりエルサレムが滅ぶ。
- (3) 救いは異邦人に。

## Ⅲ. イスラエルはみな救われる

### 1. 「イスラエルはみな救われる」(ロマ 11:26) とは「奥義」(25 節)

- (1) 今まで知られていなかったが、啓示によって明らかになったもの。
- (2) 聖書のいう「奥義」とは  
福音そのもの (マタイ 13:11)  
ユダヤ人と異邦人が同じ約束に与る (エペソ 3:3)  
教会はキリストとつながり一つとなる (エペソ 5:32)  
肉体の蘇り (I コリント 15:51)  
悪の力の働きと現れ (II テサロニケ 2:7)  
「イスラエルの救い」(ロマ 11:26)

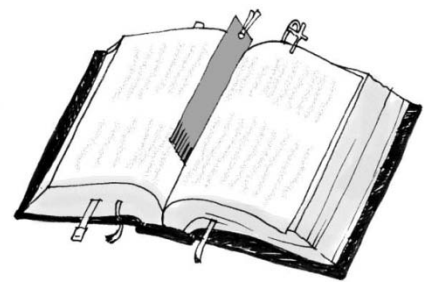
### 2. オリーブの木のたとえ

### 3. イスラエルの救いと終末

- (1) イスラエルの建国と終末
- (2) 千年王国の到来

## 結 論

1. 感謝
2. 悔い改め
3. 援助
4. 学び



## その4「天からの啓示に背かず」

### イントロダクション

1. 人は幻がなければ生きられない
2. ペンテコステとヨエルの預言（使徒2：16～17）  
使徒の働き 9章 パウロの回心  
使徒の働き 10章 ペテロの幻  
使徒の働き 16章 マケドニア人の幻  
使徒の働き 18章 コリントでの幻  
使徒の働き 26章 パウロの弁明
3. 現代人への幻

### 1. 戦いのスケールに感動

1. 成功した企業家、戦略家の幻
2. クリスチャンの幻は宇宙大のもの（暗闇から光へ）
  - (1) 人々は盲目（IIコリント人4：4）
  - (2) 道徳的墮落（ヨハネ3：19）
  - (3) 終末的裁き（マタイの福音書22：13）
3. 本質は霊的な戦い（エペソ6：12）

4. メシア時代は目が開かれる時代（イザヤ 35：1～5）

## II. 福音の輝きに感動

1. 信じるだけで救われる（エペソ 1：7 、コロサイ 1：13～14）

2. 異邦人も救われる（エペソ 2：11～22）

3. 人間の知恵では理解できない（使徒 15：1～21）

4. チャレンジ（使徒 26：22～23）

## III. 報いの大きさに感動

1. クリスマンに与えられた神の報いは、現代的であり、終末的である（ガラテヤ 3：18、エペソ 1：11、18～19）

2. 神の子としての身分

3. 神の国（ロマ 8：14～22、1ペテロ 1：4）

## 結 論

アブラハムの信仰（ヘブル 11：8、11：16）



【MEMO】